

伝統の技術×先端のテクノロジー 業界を牽引する老舗総合刃物メーカー

事業内容

プロの現場でも家庭でも活躍する高機能商品 世界から信頼される安定した品質

大阪・堺で1876年(明治9年)に田葉粉包丁の製造から創業した同社は、1952年に現在の主力製品でもある「赤い柄の剪定鋏」を発売。その後も、切り口がきれいな「あさり分けのない鋸」、ロングセラーの「クラフト鋏」、圧倒的なシェアを誇る「高枝鋏」など、斬新な製品の数々を世に送り出してきた。

製品群は、販売代理店経由で造園のプロである庭師などに販売されているほか、ホームセンターでも販売され一般家庭で使用されており、プロの現場から一般家庭にまで行き渡っている。

また、国内だけではなく、ヨーロッパをはじめとする世界80ヵ国で営業展開しており、今後は成長著しいアジア、南米、ロシアなどに向けて販売数量の増加が期待される。

同社の強みは、技術開発から製品販売に至るまで一貫して自社で行い、各工程の改善ができることである。これによって常に高い品質を保ち、グッドデザイン賞や特許取得など第三者機関からの評価にもつながっている。

補助事業

プロが作業レベルを落とさない 園芸用電動バリカンの開発・普及

園芸用電動バリカンは、1989年に“鋏の集合体”という概念でスイングカット方式という独自の機構を採用し、誕生した。スイングカット方式は、植木鋏の動きのように片刃をスイングさせて鋭利な刃先で無理なく切断するため、変色や発病を防ぎ、両刃平行運動で切断したものと比べて美しい切り口となるのが特長だ。発売から現在まで20年以上も売上を伸ばしてきた同社のヒット商品のひとつである。

しかしながら、改めてユーザーの声に耳を傾けたところ、幅広く活用できる切断対応力と作業の負担を軽減する低振動性が求められていた。また同業他社も類似製品を出してくるなか、園芸用電動バリカンのグレードアップが必要となった。生垣の手入れを造園業者に頼んだ場合でも、刈込鋏による手作業で作業する職人は多い。仕上がりを非常に気にする職人(プロ)にも満足してもらえることに加え、作業をスピードアップさせ、疲労を低減できるような園芸用電動バリカンが求められている。



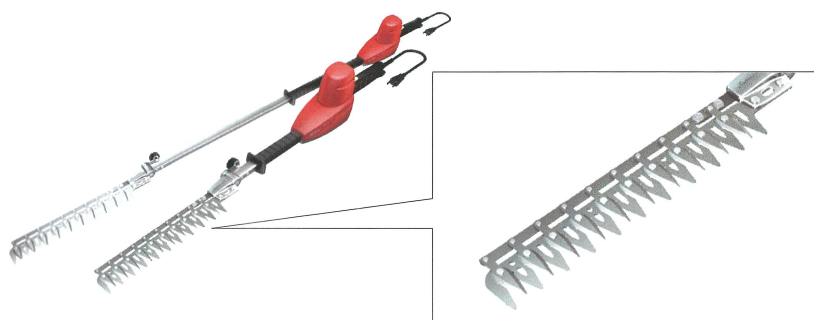
成果

切断対応力の向上と低振動の実現

試作段階では、開発スピードを向上させることを目的として3Dプリンターを導入。それでも園芸用電動バリカンの刃の仕様を決定するのに時間を要した。また“刃”は得意分野であるが、モーター製品の少ない同社では、切断力とモーターの力の最適条件を見つけることに注力し、切断力と作業負担を軽減させる低振動性を実現した。量産段階では高額な金型も導入して生産体制を整え、品質チェックもクリアし、製品化にこぎつけた。

切断対応力に関しては、以前の製品が8mmを切断目安としていたものが15mmまで拡張した。最適な角度で枝に触れられるよう刃と刃の間隔を再設計する試みも行った。シャトルとウェイトを前後逆方向に駆動させて、振動を打ち消し合うカウンターウェイト方式を新たに採用し、以前の製品と比較して75%も振動が軽減される結果が出た。

2015年度に入ってから「ハイパワー造園バリカン カルゼ」の製品名で販売を開始。価格面も以前に販売していた製品と比べてもそれほど高くはない設定で、新製品の認知度向上にはやや時間を要するだろうが、植物の成長が著しい夏場にかけて販売数の伸びが期待できる。



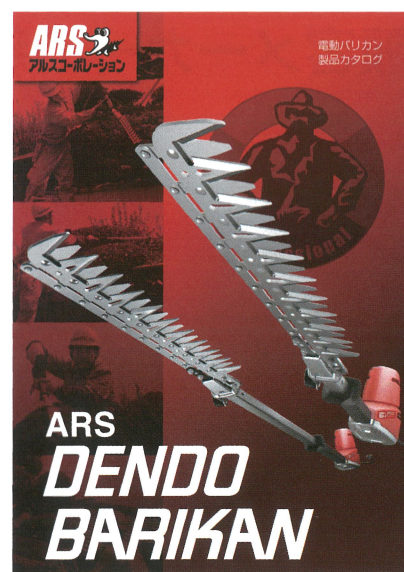
今後の展開

新製品のユーザーの拡大
デモンストレーションにより認知度向上を目指す

今後は新製品「ハイパワー造園バリカン カルゼ」の認知度の向上を図っていく。具体的にはホームセンターなどの店頭モニターを設置し、切断対応力と低振動性を強調したプロモーションビデオを流す。プロのためのハイパワーモデルではあるが、職人だけでなく一般ユーザー数の拡大を目指す。

加えて、同社がこれまで販売してきた園芸用電動バリカンの買替え需要の掘り起こしにも注力していく予定だ。口コミも含めて徐々に販売数量が伸びてくるものと予想しており、今後の販売動向に期待が膨らむ。

同社全体の事業展開としては、為替が円安に振れるなかで海外向けの輸出が堅調な推移となっている。以前は“高嶺の花”であった同社製品が、手の届く価格となり、先進国から新興国まで幅広いユーザーの「切りたい」に応えることができるようになってきている。海外での展示会に出展することで新たな販路を切り開き、海外でも国内同様にアルス品質を浸透させ、刃物業界ナンバー1ブランドを確立していく予定だ。



アルスコーポレーション 株式会社

代表取締役社長 瀧川 重隆

堺市中区八田寺町476-3

TEL : 072-260-2121

〈資本金〉40,000千円

〈従業員〉199人

<http://www.ars-edge.co.jp/>

